

オンライン講義・演習における学生の「参加」

吉田 成章(広島大学)

高等教育

教育学・教職科目

広島大学は 2020 年 4 月～5 月までのすべての授業をオンラインでの授業とし、その後、6 月までその期間を延長した。広島大学では、コロナ禍以前から「もみじ」という電子教学システム、Bb9 という教育コンテンツ提供システム、そして Microsoft Teams を教員・学生情報と紐づけた運用が可能となっており、2020 年 4 月からのオンライン授業提供は「システム上は」支障はなかった。

ここで報告する実践は、報告者が 2020 年前期に担当している教職科目の講義「教育課程論」と教育学専門科目兼教職科目の演習「教育方法学演習」である。

講義「教育課程論」は、教職必修科目であり、広島大学では第 3 学年次に履修する科目である。同講義は広島大学の教員 2 名と、校長経験者の 2 名の客員教授の合計 4 名で 4 教室をまわるオムニバス形式で講義を提供する予定であった。しかし、オンラインでの講義提供を余儀なくされたため、それぞれ 4 回分の講義を提供し、課題を提出させることとした。

吉田担当分の 4 回の講義のうち 3 回は、PPT の録画機能を使用して動画および PPT 資料を提供するオンデマンド型授業とした。図 1 は、PPT の録画機能の存在を始めて知り、録画して提供した第 1 回の講義動画の 1 コマである。あらかじめ講義ノートを用意することはままあるが、多くのスライドに

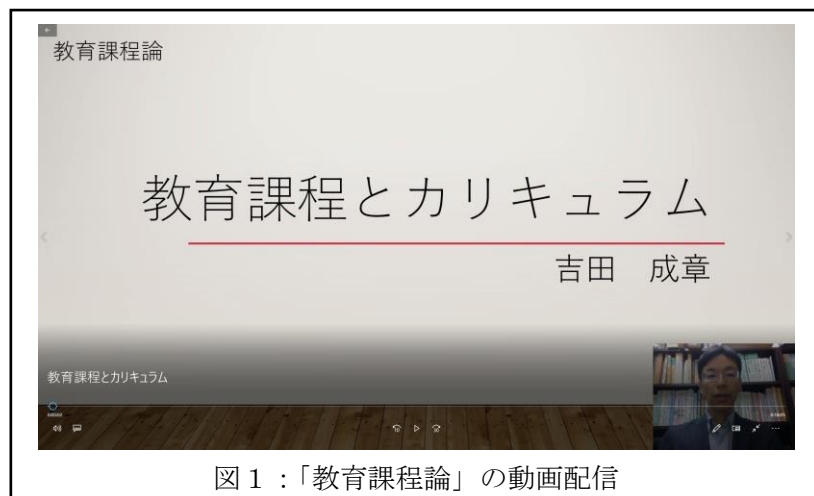


図 1 : 「教育課程論」の動画配信

「ノート」を書き込み、読み上げる形で音声を録音させていったが、学生からの応答と「間」がないと、一人で「ノート」を読み上げるだけでもこんなにつかえる、言いよどむものかと情けなくなったが、おそらく多くの方が首肯してくださる経験であろう。

「教育課程論」は教職必修の講義であり、多くの関連書籍や資料、そして学習指導要領という教材や教育実習に向けた準備など、学生が自分自身で課題を設定し、資料にアクセスし、学修を進めていくことは比較的容易である。それに対して、個人・グループでの綿「密」な準備と連携、そして教室での詳「密」なグループディスカッションと全体討議、授業者と発表班・TA との緻「密」な打ち合わせによって提供してきた演習科目による学修は、講義「教育課程論」のようなオンライン・オンデマンド型授業では容易には成立し得ない。

そこで、まずは次の二つの仕掛けを行った。一つは、教育方法学演習で取りあげる「学習集団の授業づくり」の導入として、一つの授業実践を取りあげるという仕掛けである。いま一つは、

その授業実践を提供してくださった授業者と「つながる」という仕掛けである。授業実践を提供してくださったのは、熊本の福田恒臣指導主事であり、彼の実践記録(福田恒臣・吉田成章(2018)「個と集団

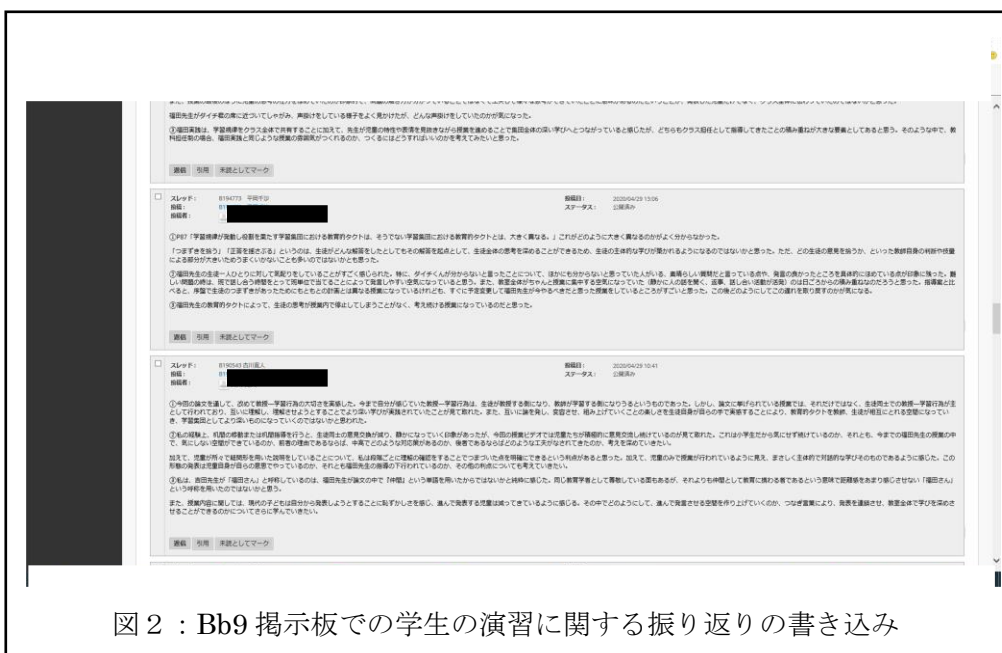


図 2 : Bb9 掲示板での学生の演習に関する振り返りの書き込み

にドラマを引き起こす教育的タクト：算数科授業から」深澤広明・吉田成章編『学習集団研究の現在 Vol.2 学習集団づくりが描く「学びの地図」』溪水社、86-101 頁)を資料として学生に提示し、あわせて授業ビデオと関連資料を学生に読解させた。その上で、福田氏には 2020 年 5 月 12 日(火) 19:00 より Zoom にて演習受講生との協議にご参加いただいた。図 2 は、本演習後の学生の Bb9 掲示板への書き込みである。

この仕掛けをきっかけに、グループでの文献読解と発表へと演習の流れをつないでいくことにした。図 3 は、グループ発表についての通知文である。Bb9 での予習と復習を相互に見合うことを前提に、福田実践の検討を通じて浮かび上がったキーワード「集団」、「全員参加」、「主体」、「参加」をめぐるグループ発表がなされていくことになった。

オンラインでの学生の「参加」の鍵となっているのは、TA による学習支援である。オンラインによる演習提供の技術面はもちろんのこと、学生の発表支援、および吉田がオフラインとなった時の対応まで TA にカバーしてもらうことになっている。オンラインによる講義と演習によって、これまでとは異なる「参加」のあり方が、教員・TA・学生にも求められる。

幸い、教育課程論および教育方法学は、その「参加」のあり方そのものが学問的探究の対象でもある。引き続き学生とともにコロナ禍における「参加」のあり方を検討していきたい。

グループ発表について

(1) Teams を用いた同時双方向型授業のタイムプラン

時間軸	内容	メディア
10:30-10:40	前時までの復習 予習の確認	Teams Bb9 掲示板(予習)
10:40-10:50	発表班のプレゼン	Teams、その他
10:50-11:00	グループでの質問項目の検討	Teams のグループチャネル
11:00-11:10	グループから発表班への意見・質問	Teams
11:10-11:15	発表班からの「問い」の提示	Teams
11:15-11:30	グループでの「問い」に関わる議論	Teams のグループチャネル
11:30-11:50	グループ毎の議論内容の発表と議論	Teams
11:50-12:00	まとめとふりかえり (Bb9 掲示板への書き込み)	Teams Bb9 掲示板(振り返り)

(2) 発表班がグループ発表に向けて準備するもの

- 発表の準備・打ち合わせには、Microsoft Teams「教育方法学演習」チームの①~⑩の各チャネルを使ってよい(メール等、他のツールでももちろん可)
- 発表当日の 10 分のプレゼン
 - プレゼンの方法は、レジュメ(A4 で二枚の分量を目安)で発表可、パワーポイントも可、演劇、動画、音楽、絵画、ダンス、いずれでも可
 - プレゼンにあたって、必ず一度は、TA 安藤に相談すること
- 発表当日の「問い」の提示
 - 担当論文をもとに、演習のクラス全体で議論するべき「問い」を提示すること
 - 「問い」の提示は、上記の 10 分のプレゼン中ではなく、後半に提示する
- 例えば、福田・吉田論文を例に取ると、A4 二枚に福田実践と吉田解説の概要をまとめ「問い」：福田実践は(学級担任制の)小学校だから成り立つ実践か?
 - この「問い」を後半に提示する
- ※「福田実践は、中学・高校でも成り立つか?」
 「福田実践を成立させる担任一生徒集団との関係のポイントはどこか?」
 「福田実践における教育的タクト生起のポイントは吉田解説で正しいか?」
 など、上記の「問い」も、他の問いから支えられている「問い」である
 そのため、発表班は「問い」をしっかりと事前に吟味した上で、
 当日の他の受講生の「予習」およびグループディスカッションなどを見ながら、最終的な「問い」を決定することになる(はず)
- 発表資料は、Teams の該当チャネルの「ファイル」に事前にアップロードしておくこと

図 3 : グループ発表についての通知文